

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【西牟婁振興局】4Hクラブ連絡協議会のプロジェクト活動が、近畿地域農業青年会議で
敢闘賞を受賞！

令和6年1月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

| | 頁数 |
|--|------------|
| I 海草振興局 | 1 |
| 1. わかやま布引だいこん優良品種試験 | |
| 2. 小学校でみかん出前授業を実施 | |
| II 那賀振興局 | 2-3 |
| 1. 紀の川市4Hクラブが県外研修会を開催 | |
| 2. 紀の川市環境保全型農業グループが農業機械研修会を開催 | |
| 3. 紀の川市環境保全型農業グループが果樹栽培セミナーを開催 | |
| III 伊都振興局 | 4 |
| 1. 新規就農者研修会（農業経営）の開催 | |
| 2. 橋本小学校でみそづくり伝承活動を実施 | |
| IV 有田振興局 | 5 |
| 1. うめ「南高」せん定講習会を開催 | |
| V 日高振興局 | 6-7 |
| 1. 由良町農山漁村女性の日交流会を開催 | |
| 2. 令和5年度日高地方青年農業者会議を開催 | |
| 3. 日高地方生活研究グループ連絡協議会先進地研修会を開催 | |
| 4. 「第36回地域農業を考える日高のつどい」を開催 | |
| VI 西牟婁振興局 | 8 |
| 1. 4Hクラブ連絡協議会のプロジェクト活動が、近畿地域農業青年会議で敢闘賞を受賞！ | |
| 2. 西牟婁地方農業士会連絡協議会が研修会を開催 | |
| VII 東牟婁振興局 | 9 |
| 1. 東牟婁地方農業士会が先進地研修会を開催 | |
| 2. 古座川町相瀬でゆずせん定講習会開催 | |
| VIII 農林大学校 | 10 |
| 1. 東海・近畿ブロック農業大学校学生研究及び意見発表会 | |

I 海草振興局

1. わかやま布引だいこん優良品種試験

和歌山市の南部は、古くからのだいこんの産地であり、「わかやま布引だいこん」として地理的表示制度にも登録されている。出荷は11月中旬から2月末まで続き、播種時期別に適した品種を栽培している。

農業水産振興課では、JAわかやまと連携して、さらなる品質向上と安定生産を目指し、新規品種の比較試験を行っている。11月から順次調査しており、1月5日と19日には9月下旬から10月上旬には種した品種の調査を行った。長さ、重さ、形、表面のなめらかさ、食味など、慣行品種との比較を行った。調査結果を基に、有望な品種については生産者や産地の関係者と導入を検討していく。



ほ場での調査



表面や内部の調査

2. 小学校でみかん出前授業を実施

地産地消・食育の取組の一環として、和歌山県が日本一の生産量を誇るみかんの知識を深めてもらうため、1月24日、紀美野町立下神野小学校の3年生9名に出前授業を実施した。

当課の岩橋普及指導員が「みかんのお話」として、みかんの収穫量、みかんの樹の1年間の姿、おいしいみかんの見分け方などについて説明した。児童はクイズや問いかけに答えるなど、授業に積極的に参加した。

また、かんきつは種類が多く大きさや形が色々あることを知ってもらうため、24種類のかんきつを持参し、児童に触って香りを感じてもらった。「かんきつの種類めっちゃある!」、「いいにおいがする」、「私はこのかんきつの香りが好き」、「食べたい」などさまざまな意見や感想があった。かんきつを体感することで、香りや感触とともに「みかんのお話」を記憶してもらえたと思う。

今後も和歌山県には誇れる農産物がたくさんあることを知ってもらい、少しでも記憶に残るような取組を実施していく。



出前授業



色々なかんきつを体感

Ⅱ 那賀振興局

1. 紀の川市4Hクラブが県外研修会を開催

1月15日、16日、紀の川市4Hクラブでは奈良県で県外研修会を開催し、クラブ員5名および振興局担当者が出席した。

1日目、宇陀市の有限会社山口農園では、完全分業での葉物野菜の生産と、フードロスをなくすための野菜ペーストや野菜を使った墨汁など加工品への取組や地域での活動の話聞いた。次に奈良市で大和郡山市4Hクラブとの交流会を行い、お互いの栽培品目や農業に対する熱い思いを語り、親睦を深めた。

2日目、葛城市の農業法人寺田農園株式会社で、水耕栽培でのハーブやマイクロリーフ、エディブルフラワーのハウスを見学し、栽培や経営について話を聞いた。次に明日香村で明日香村地域振興公社の取り組みについて説明を受けた。参加したクラブ員からは「ハーブやエディブルフラワーに興味を持った」、「もっと話を聞きたい」という声が聞かれた。



山口農園



寺田農園

2. 紀の川市環境保全型農業グループが農業機械研修会を開催

1月23日、紀の川市環境保全型農業グループでは農業機械研修会を開催し、会員等14名が参加した。

講師にヤンマーアグリジャパン株式会社中部近畿支社和歌山支店営業部課長の中山智史氏を迎え、トラクターと作業機のマッチングを中心にお話いただいた。

講師からは、トラクターと作業機を連結する際の注意点や、効率よく作業するための前後バランスについて、また大きめの馬力で作業することでの燃費向上といった話のほか、最近の耕耘はロータリーで刻むのではなく、燃費向上のため丸歯で切った土をカバーに当てて砕いているといった話もあり、会員は興味深く聞いていた。

講師からは「今後は農地集積が進み、作業受託する農家も増えると思われる。その際は、効率よくきれいに作業できるかがどうか」が大事」と話があった。

参加者からは、「非常に参考になった。同様の研修会を継続して実施してほしい」、「今回は基礎編だったが、上級編もやってほしい」といった声が聞かれた。



農業機械研修会

3. 紀の川市環境保全型農業グループが果樹栽培セミナーを開催

1月30日、紀の川市環境保全型農業グループでは果樹栽培セミナーを開催し、会員等26名が参加した。

山形県のブドウ農家「おらほぶんど」の渡辺 薫氏を講師に迎え、「植物ホルモンマネジメントを活用した桃のせん定技術」と題してお話いただいた。

最初に、講師自身が植物ホルモンに興味を持つことになったきっかけの話があり、続いて植物ホルモンの種類やその働きについて、また近年の異常気象が植物ホルモンに及ぼす影響や対処方法などについて説明があった。

後半は、もも園地においてせん定の実演が行われた。植物ホルモンの作用を考慮したせん定方法に、会員は戸惑いながらも、熱心に参加していた。

会員からは、「東北地方と和歌山県では樹形など違いはあるが、植物ホルモンに注目すると、たしかに理にかなったせん定方法だと思う」との声が聞かれた。



植物ホルモンについての講義



もも園地でのせん定

Ⅲ 伊都振興局

1. 新規就農者研修会（農業経営）の開催

1月23日、新規就農者の経営力の向上を図るため、新規就農者及びJAトレーニングファーム受講生を対象に農業経営に関する研修会を開催し、4名が出席した。

初めに、元普及指導員の宇治泰博氏から農業経営や経営分析について講義を行い、かきの農業経営モデル指標を用いて収益性の分析や、簿記の記帳方法について説明を行った。続いて、農業水産振興課山田主査が労働者を雇用する際の注意事項など労務管理について講義を行った。

出席者からは、「使用者と労働者の合意があれば、労働条件は自由に設定してもよいか」などの質問があった。



講義の様子

2. 橋本小学校でみそづくり伝承活動を実施

橋本市生活研究グループは、昔から地域で作られている米みそづくりを後世に伝えることを目的に、1月30日、31日、2月1日の3日間、橋本小学校の4年生34名を対象に、みそづくり体験を実施した。グループ員が講師となり、1日目はみその種類やみそづくりに必要な材料、手順などを説明し、米麴の種付け作業を行った。2日目は、米麴の発酵状況を確認して切り返し作業や、大豆を水に漬ける作業を行った。最終日は、水に漬けた大豆を煮て、挽いたものを米麴と混ぜ合わせ、団子状に丸めて容器につめる仕込みを行った。

児童からは、「米麴は良い香りがする」、「材料を手で混ぜるのがたのしい」などの感想が聞かれた。



みそづくりの説明を聞く児童たち

IV 有田振興局

1. うめ「南高」せん定講習会を開催

1月18日、JAありだウメ部会（部会長：清水康伸氏）が、有田川町金屋でせん定講習会を開催し、部会員19名が参加した。当課の城村普及指導員が講師として、カットバックと摘心処理を開始して1年目と3年目の樹のせん定方法を説明した。

春季のバリカンによる摘心処理が容易にできるよう、主枝や亜主枝などから発生している結果枝を長さが均一になるように切り揃えること、また果実が着生した時に混み合うような結果枝、果実肥大が劣るような下垂した側枝を間引くことをポイントとして説明した。

摘心処理を開始して3年目の樹は年々結果枝が多くなっており、青うめの収量も2.3t/10aとなり、処理前の約1.3倍となった。カットバックと摘心を組み合わせた栽培方法に興味をもつ農家も多く、実践する農家も数名あることから3年間継続してきた講習会の成果を実感した。

今後もJAありだウメ部会と連携して、うめの生産安定につながる摘心技術の導入推進に向けて普及活動に取り組んでいく。



うめ「南高」せん定講習会

V 日高振興局

1. 由良町農山漁村女性の日交流会を開催

1月11日、由良町農山漁村女性の日推進会（会長：片山綾子氏）が由良町中央公民館にて交流会を開催し、会員45名が参加した。

この交流会は、由良町の女性団体（農業士・生活研究グループ・JA紀州女性会・漁協女性部等）が3月10日の「農山漁村女性の日」を前に毎年開催している。

今回は、醤油づくり体験と、「みんなで寄らら、ゆらのええもん」というテーマのもと、由良町内の団体の活動発表と意見交換会を行った。

醤油づくり体験では、湯浅醤油有限会社の宮本結実氏を講師として迎え、ペットボトルを使った醤油づくり体験を行った。活動発表では、町内で活動している3団体から地域での子供支援や、食育活動の報告が行われた。同じ町内で様々な活動をしている、交わる機会も少ないことから、今後由良町を盛り上げていくために協力をしていきたいという意見が多く聞かれた。



醤油づくり体験



事例発表

2. 令和5年度日高地方青年農業者会議を開催

1月22日、日高地方4Hクラブ連絡協議会（会長：尾曾匠氏）と日高振興局農林水産振興部の共催の下、新しい農業・農村づくりに役立てることを目的に標記会議を開催し、クラブ員12名、関係者8名の計20名が参加した。

会議では、計3課題の発表があり、プロジェクト発表はみなべ梅郷クラブ、意見発表は御坊市4Hクラブ、印南町4Hクラブの各クラブ代表者が発表した。

審査は、普及指導協力委員会をはじめとする審査員6名で行われ、最優秀賞には、プロジェクト発表課題名「農地マップで現状把握と未来構想」のみなべ梅郷クラブの柏木研哉氏を選ばれた。現在喫緊の課題となっている耕作放棄地の解消に向けた取組について発表し、パソコンやネットの活用で手軽に農地マップを作ることができるという点や、現在の行政側の動きによくマッチした取組である点などが評価された。

今回発表した3名は、2月6日の県青年農業者会議においても発表を行う。



プロジェクト発表



賞状授与

3. 日高地方生活研究グループ連絡協議会先進地研修会を開催

1月23日、日高地方生活研究グループ連絡協議会（会長：後藤明子氏）では、グループ員相互の研さんと親睦を図るため先進地研修を実施し、17名の参加があった。

今年度は地産地消の取組を学ぶことを目的に、JA大阪南が経営する直売所や地産地消レストランが併設されている「道の駅奥河内くろまろの郷」、JAいずみのが経営する「愛菜ランド」及び株式会社青木松風庵が運営する「月化粧ファクトリー」の工場見学を行った。

地産地消レストランでは、地元農家が直売所で販売している河内野菜をふんだんに使われていた。

また、施設内に併設されている加工食品の販売コーナーでは、女性起業グループのジャムやドレッシング、菓子類などが多数出品されていた。

会員からは、加工品を販売する上でのディスプレイやラベルなどの見せ方の工夫や大切さがわかり、地域での活動に生かしていきたいという意見が聞かれた。



地産地消レストランと地元野菜をふんだんに使った料理

4. 「第36回地域農業を考える日高のつどい」を開催

日高地方農業士会、生活研究グループ、4Hクラブで構成する地域農業を考える日高の集い実行委員会（会長：清水俊夫氏）では、1月30日に日高川交流センターにおいて「第36回地域農業を考える日高のつどい」を開催し、農業者、地元選出県会議員、区市町関係者等約80名が参集した。

第1部はパーソルグローバルワークフォース株式会社井出 飛悠人氏から、「採用して気づいたことから考える 外国人材の採用について」と題して講演が行われた。出席者からは、日本と外国との文化の違いについての質問があった。

第2部では、「日高地方におけるクビアカツヤカミキリの被害状況と対策について」と題して日高振興局職員から講演を行い、被害の拡大防止のためには早期発見、早期対策が重要である、等の説明をした。

日高農業、農村の活性化に資するため、今後とも伝統の「日高のつどい」を支援して行きたい。



開会挨拶する清水会長



講演する柏木普及指導員

VI 西牟婁振興局

1. 4Hクラブ連絡協議会のプロジェクト活動が、近畿地域農業青年会議で敢闘賞を受賞！

1月24日、神戸市で開催された近畿地域農業青年会議に、西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会（会長：北川翔大氏）から梅田純也氏ら2名が県代表として出席し、「梅の消費拡大プロジェクト！うめラッシーを広めよう！」というテーマで発表を行った。

クラブ員全員がうめを生産する当クラブでは、うめの消費量減少に危機感を感じたことから、昨年度から梅シロップの牛乳割り「うめラッシー」のPR活動に県内外で取り組んでいる。

会議ではプロジェクト発表5課題、意見発表5課題の計10課題が発表された中、本発表は観光関係や牛乳協会等の他団体と積極的に連携した活動が特に評価され、敢闘賞を受賞した。

プロジェクト発表部門のうち、地域活動部門で高評価されたことから、3月5日、6日に東京都で開催される全国青年農業者会議で発表を行う。



梅田氏によるプロジェクト発表

2. 西牟婁地方農業士会連絡協議会が研修会を開催

1月19日、みなべ町において現地研修会を開催し、会員11名が出席した。

まず、南部高等学校の農場で、自動草刈機に関する研修を行った。この機械はあらかじめ専用のワイヤーで囲んだエリア内の草を刈るもので、自動で充電ステーションまで戻って、電力を補い再び草を刈ることができる。導入して1年近く経過しているが、10aのうめ園の雑草は十分処理できていた。

次に、一昨年9月に田辺市で開催した経営研修会の講師である株式会社うめひかり（梅ボーイズ）代表の山本将志郎氏の加工場等で研修を行い、新たな取組として実施している自社農園の拡大とそれに伴う労働力の確保、加工場の増設等の説明を受けた。

また、1月31日に経営研修会を開催し、会員26名が出席した。

株式会社農テラス代表取締役の山下弘幸氏から「資材費等高騰時における農業経営について」と題して講演があり、これまでの「利益を上げるために売上（出荷量）を上げる」経営から、「経費を下げて単価を上げることにより質を上げる」経営への転換について、自身が熊本県の野菜農家の後継者として就農した経験を交えた説明があった。



株式会社農テラス山下氏による講演

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 東牟婁地方農業士会が先進地研修会を開催

1月11日、東牟婁地方農業士会（会長：杉浦 仁氏）は、鳥獣害対策や耕作放棄地解消に向けた地域の活性化事業やIターン就農の事例を学ぶことを目的に、田辺市の株式会社日向屋と白浜町のわかやましらはま農家を訪問し、会員3名が出席した。

株式会社日向屋では、岡本和宜代表取締役から、地域の課題であるイノシシ・サル・シカなどの獣害対策に取り組むため、若手農家らで平成28年に狩猟チームを結成したことを機に、平成30年に会社を設立。地域内のジビエ解体処理施設やジビエ料理店との連携で処理・加工・調理・販売の体制を構築したことや、耕作放棄地をうめ園に再生する取組やうめせん定作業の請負、就農希望者の研修受入、みかん等の販売促進などの取組について話を伺った。

わかやましらはま農家では、遠藤賢嗣氏から、Iターン就農の経過や経営概要、就労継続支援B型事業所との農福連携、農業体験受入などの取組について話を伺った。

参加者からは、「人とつながり、地域へ人を呼ぶ農業や経営理念について学べ、大変貴重な機会となった」という感想が聞かれた。



株式会社日向屋



わかやましらはま農家

2. 古座川町相瀬でゆずせん定講習会開催

1月25日、古座川果樹研究会（会長：新屋常夫氏）は、ゆずのせん定技術向上のため講習会を開催し、生産者15名、農業水産振興課2名が参加した。

農業水産振興課岩橋普及指導員から、かんきつ類のせん定や栽培方法の説明を行い、その後、ゆずに適したせん定方法等を説明しながら、せん定を行った。

参加者からはカミキリムシの防除方法や主枝の配置についてなどの質問があった。



ゆずのせん定

Ⅷ 農林大学校

1. 東海・近畿ブロック農業大学校学生研究及び意見発表会

1月18、19日、大阪府の長居ユースホテルにて、東海・近畿ブロック農業大学校学生研究及び意見発表会が開催され、本校からは1名の学生が出席した。

本発表会は、日頃の学習成果を交換し、農業への意欲を高めるとともに、相互に研鑽を積むことを目的として開催されており、研究発表では上位3名、意見発表では上位2名が全国会で発表することとなっている。

初日は研究及び意見発表が行われ、研究発表の部に、本校から2年生野菜コースの河村宗弥さんが課題名「ミニトマトにおける積算温度を用いた収穫時期の予測」で発表を行った。各府県とも取組内容や発表方法に創意工夫がみられた。

残念ながら本校からは全国発表会に選出されなかったが、自分たちが取り組んだ内容や意見を堂々と発表した。

また、2日目は富田林市にある「ナカスジファーム」を現地視察し、各校の学生間で交流を深めた。

農林大学校では、今後も全国大会出場を目指して指導を行っていく。



発表の様子

普及活動現地情報 発行・編集

| | | |
|----------------------|-----------------|-----------------|
| 和歌山県農林水産部経営支援課 | TEL073-441-2931 | FAX073-424-0470 |
| 海草振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL073-441-3377 | FAX073-441-3476 |
| 那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL0736-61-0025 | FAX0736-61-1514 |
| 伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL0736-33-4930 | FAX0736-33-4919 |
| 有田振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL0737-64-1273 | FAX0736-64-1217 |
| 日高振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL0738-24-2930 | FAX0738-24-2901 |
| 西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL0739-26-7941 | FAX0739-26-7945 |
| 東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課 | TEL0735-21-9632 | FAX0735-21-9642 |
| 和歌山県農林大学校 | TEL0736-22-2203 | FAX0736-22-7402 |
| 和歌山県農林大学校就農支援センター | TEL0738-23-3488 | FAX0738-23-3489 |